平成２８年度　南砺市農業農村整備環境（田園環境プラン）検討委員会　会議録

１　開催日時　平成２８年１１月１０日（木）　午後２時から午後３時３０分まで

２　開催場所　南砺市役所　福光庁舎４階　４０２会議室

３　出席委員　８名　杉森桂子、小原耕造、千秋謙治、山崎一雄、奥村和夫、七山清、松山善昭、宮田義人

４　欠席委員　１名　池田喜昭

５　幹　事　（富山県）　武内政弘、山森主税
　　（南砺市）　上坂孝

６　事務局　（富山県）　豊本康晴、辰尾朋子、柴田祐紀（砺波農林振興センター）
　　西島宏伸、小川玲司（高岡農林振興センター）
　　（南砺市）　平本光一（農林課）
　　荒井隆一、小又一洋、中村拓也（建設課）

７　傍聴者　　無し

８　会議録

事務局（市）　　開会宣言

荒井建設課長　　挨拶。はじめに検討委員会について簡単に説明させていただきます。この委員会の設置については委員会設置要領に記載があります。この要領の第１条に食料・農業・農村基本法の制定と土地改良法の改正により農業農村整備事業を実施するためには環境との調和に配慮することが法律上、位置付けられております。ただ、環境に配慮した工法を選択することは事業費が膨れ上がったり、受益者の維持管理にも影響を与えることも考えられます。そのため、地域の実情や特性をよく理解された関係地区の方々、専門的分野に精通した方々などで構成する環境検討委員会を設置し、今後各地区で行われる事業について環境との調和に配慮されているか、検討、議論、ご助言をいただき事業の円滑な推進を図っていただきたいと思っております。また、南砺市で

は平成２５年度に南砺市田園環境プランを策定しております。このプランは毎年見直しが必要であり、これについても皆様の意見をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（市）　委員の紹介（１ページ）

事務局（県）　環境に配慮した農業農村整備事業について説明（２ページから４ページ）

事務局（市）　「南砺市田園環境プラン」について概要を説明（別紙）

事務局（市）　委員長の互選について富山県農業農村整備推進委員の杉森桂子氏を推薦し他委員の賛同を得る。

委員長　杉森委員長挨拶。職務代理者について松山善昭氏を指名する。

事務局（市）　協議事項に進むにあたり、進行を委員長と交代

委員長　協議事項１）検討委員会設置要領の一部改正について説明を求める。

事務局（市）　検討委員会設置要領の一部改正について説明（５ページから６ページ）

委員長　意見がないようですので次の協議事項へ進みます。

事務局（市）　「南砺市田園環境プラン」の見直しについて説明（別紙）

委　員　南砺市の南北に活断層があるがその検討は市のどこでやっているのか。また、このプランニングのどこにそれが入っているのか。

事務局（市）　担当部署は総務課の防災危機管理係になります。活断層の検討については市全体の防災計画の中に入っております。

委　員　その担当部署から活断層についてもこのプランで配慮してほしいという申し入れはないのか。

事務局（市）　　このプランについてはありません。

委　員　　ないとはどういうことか。例えば、ため池が決壊して水害が起きたときには特にこういう配慮を行うなど、住んでいる人のためにも担当課に申し入れをしてプランニングの中に入れていただきたい。

事務局（市）　　ため池に関しては防災重点ため池というものがあり、土質調査や堤体解析等を市で実施しております。それらの調査結果を踏まえて今後、防災危機管理係とも協議をしながら、このプランの中でも検討していきたいと思います。活断層についても一緒に協議させていただければ。

幹　事（県）　　本来、私は発言する立場ではありませんが事務局として発言させてください。最近、地震も多いのでため池やダム等の施設がある地域の方にとって活断層というのは非常に関心があることだと思います。南砺市からも説明がありましたがため池やダム等の改修やそれが今どういった状態かという構造物の個別の検討をするときには近くに活断層がないかが１つの検討材料になっています。ただし、今の基準では高さ１５m以上のダムやため池等を新設する場合にはそういった検討材料を計画の中にいれて、国指定の審査機関に見てもらうということになっていますが、この自然環境とのマッチングを審議する中で活断層も同時に審議するという形にはなっておりません。この場で活断層と環境への影響、その施設の改修への影響まで混ぜて議論するのは焦点がぼけてしまい、取り上げるのは難しいような気がします。

委　員　　その審議はどこでやるのですか。

幹　事（県）　　個別の施設を改修するときには活断層やその施設の構造、地域の安全等、必ず技術的な検討をしなければいけませんのでそういう専門家がおられるところで審議されます。南砺市の防災計画に例えばどのように逃げたらいいか等が盛り込まれるのでこの中で検討することは非常に難しいと思います。

委　員　　難しい簡単ではない。こちらではないかもしれないがこちらで委員の意見も盛り込んでくれるという話があるからお話した。そういう体制になっていないのではという気がしたのでしっかりしてほしい。県はしっかりしているかもしれないが市でも対応してほしい。災害が起

きてから言っておけばよかったという話では済まされないので協議すべき内容ではないかと私は思います。特に先の地震で起きている災害は防災地図に載っていないところでも大きな災害が起きている状況でもあります。その防災地図に活断層が明記されているのに市が対応していなかったら県が指導しなくてはいけないですがもしかしたら県も抜かっているのではないかと心配しております。是非、後世のために検討してみてください。

幹　事（市）　環境プランの中に現況調査というところもございますのでこの欄に載せるように検討していきたいと思います。

事務局（県）　平成２９年度新規事業地区の①農村地域防災減災事業《河川応急》小又地区について説明（７ページから１０ページ）

委員長　（既設のファームポンドは）やはり漏れとかありますか。

委　員　はい。コンクリで埋めたり、シートを張ったりして対策していました。１年では目に見えるほどの沈下はありませんがシートがパンパンになってきます。また、県道に面しているため交通量も多く、特に最近は管理者責任についても叫ばれているので県に改修をお願いしました。

委　員（県）　資料にも工事をする際には、低騒音と書かれていますがここの地盤は片方がやわらかくて、それで少し傾いていくということが原因の１つだと思います。基礎地盤の改良はどのような工法を考えていて、どんな配慮ができると考えてらっしゃいますか。

事務局（県）　確かに地盤は一部ゆるいところがあります。そういうところは表層の何ｍかを検査して改良材を使う、あるいは支持の杭等を打って構造物を安定させるなどを考えております。これから再度ボーリング調査を実施して最適な工法を考えたいと思っております。

委　員（県）　目地補修だけか。下地は直さないのか。

事務局（県）　現在、下地を２箇所測っており、実際に工事に入る前に再度ボーリング調査を行います。下地の改良は土質を詳細に調べて、その環境基

準にあったものを吟味しながら進めていきます。また、確定で申し上げられませんが例えば下地を１０ｍも改良しなければいけない場合は杭を打つという方法もございます。ここで材料を具体的に提示できないのが残念ですができたものが有害なものであってはいけませんので当然、配慮して行っていきます。

委　員（県）　今のところは地盤の改良までは考えていないということですか。

事務局（県）　地盤の改良は行います。

委　員（県）　今の考え方ではセメント改良みたいなことをイメージしているのですか。

事務局（県）　そうです。それが一番安くつくだろうと想定しています。

委　員（県）　だとすれば工事の際にはやっぱり周りに影響が出ないように配慮して工事を行うとそういうことですか。

事務局（県）　そういうことです。

委　員（県）　（他委員に向けて）環境に対する配慮という面では今そういったことをこの工事では考えているようです。

委員長　これ以上意見がないようなので次の協議事項へ進みます。

事務局（県）　②農村地域防災減災事業《ため池》野地地区について説明（１１ページから１５ページ）

委　員　（野地ため池の外来種は）具体的にはブルーギルとブラックバスのどちらですか。

事務局（県）　ブラックバスです。

委　員　全盛期はニジマスやコイがおり、私たちの幼いころは釣りのメッカでしたが釣り人たちの放流があってブラックバスがものすごく増えた。平成２０年に集中豪雨があったときに水を全部抜いて、ブラック

バスも自然に下流に流し、それから毎年、ブラックバス退治も兼ねて５年間ほど泥の排出を行っている。将来は釣りのメッカにしたいのでここ３年ほどは南砺市の街づくり事業の補助をもらいながら進めている。元々、堤体の修理も土地改良区へお願いしていたが国の防災事業の話があり、一度工事は見送って、防災事業で改めて工事をお願いすることになった。先日、工事に向けた環境調査をしたいということで県に同行し、その際に捕らえたのがこの資料のコイです。野地の集落はため池がないと水が一滴も流れない集落で、魚を仮に放す池もないので小二又にあるイワナの養殖場を借り、集落の人間総出で魚を捕まえて養殖場へ移動させたので今現在、魚は１匹もいません。また、１週間ほど前から再び水を溜め始めましたので現在どれくらいたまったかという状態です。もし、環境等で関心があるようでしたら一見していただいても結構です。

委　員　　ブラックバスやブルーギルは半年ぐらい泥の中で生きられるが。

委　員　　これは５年ほど前からやっている。当初は水を抜いたのに翌年になるとまたブラックバスでいっぱいということもあった。５年近くやった後、試験的に稚魚を放してみようということで補助を受けながら２年前に放した稚魚がこの４５ｃｍに成長したコイだと思われる。また、資料の小さい魚が今年の春に生まれた魚じゃないかと思われる。完全に改修が終われば将来、孫たちのため、あるいは里山のため、釣り人が楽しめるような環境にしていきたいというのが集落の願望です。

委　員　　その９月２８日の調査のときにもいなかったのか。

委　員　　そうです。

委　員　　わかりました。

委　員　　資料の写真を見ると柵がないが。

委　員　　旧福光町の時代に散策道やキャンプ場と合わせて作っていただきましたが自然に還ってしまいました。立ち木もあるので落ちるような状態ではありません。堤体の上は市道になっており、少し歪んでおりますがガードレールもあります。以前に建設課とも改修完了時に新し

く設置しようという話になっていましたが、防災事業の関係で少し話が変わってきています。今すぐ設置しても工事のときに壊す必要があり、防災事業でやっていただいた方が地元負担も少ないため、区長にも今は要望しないということで話をしております。

委　員　　今年は砺波市で事故もあったのでしっかりとお願いします。

委員長　　これ以上ご意見がないようですので次の説明をお願いします。

事務局（県）　③農村地域防災減災事業《用排水》戸久用水地区について説明（１６ページから１９ページ）

委　員　　この地域にはホタルがいませんでしたか。

事務局（県）　昆虫に関しては対象にしておりません。

委　員　　田んぼは最近、除草剤を撒くので見かけないが山手にいけばいる。

委　員　　（ホタルの種類は）ゲンジですかヘイケですか。

委　員　　ちょっとわからない。

委　員　　たぶんゲンジだと思う。あとシジミは何シジミかわかるか。

事務局（県）　そこまではわからない。

委　員　　小矢部市と南砺市の境界だと思いますが距離はどのくらいか。

事務局（県）　南砺市のテリトリーは２ｋｍ弱です。

委　員　　小矢部川水系はタイワンシジミだと思います。取ったものを一度どこかに持っていって、後から戻すということか。

事務局（県）　戸久用水は冬期間、通水を行っておらず、年中そこに生物がいるということではないので今回の計画では一時的に移動して戻すことは考えていません。

委　員　　大丈夫だと思います。

委　員（県）　今の話は、全面改修ではなくて長い路線のうちの５箇所なので５原則の回避を入れてもいいのではというご意見だと思うのですがいかがですか。

事務局（県）　単年度に１区間ずつやっていくので１区間やっては戻ってきて、１区間やっては戻ってきて、ということも期待できるかもしれません。

委　員（県）　壊す前に見ていただいて月１回は影響のない下流へ逃がすのも手ではないでしょうか。

事務局（県）　はい。

委　員　　仮設道路は掘削ですか盛土ですか。

事務局（県）　平面図の①区間は非常に急峻な場所にあるので水路敷自体を仮設道代わりにして下流域から入り、二次製品を据え付けていくという形になります。

事務局（県）　②区間だけが盛土での仮設道路というふうに見ていただければ結構です。

委　員　　地質が砂地なので掘削すると取り返しのつかないことになる可能性もある。

事務局（県）　地盤が持つのであれば改良はしませんが、計画上セメント改良も見込んでおります。実際には基礎地盤を調査して必要に応じて改良を行います。

委　員　　私も工事をして危ないと感じたことがあるので十分に注意してください。

委　員　　この資料ではないが最近、図面に方位と縮尺が載っていないものが見られる。他のところへ持って行って笑われることがないように上司

から若い方へ指導をお願いします。

委員長　　では全体を通して何か意見がある人はいらっしゃいますか。

委　員　　最近、道路や会社からシンボルツリー等の緑が減ってきている。緑は山や里だけではない。会社や各農家の人たちが自分達で緑を守っていこうというような運動をしている人は最近いるのか。

委　員　　昔は自分の家の近所でもみんなそういう運動をやっていたが今は私だけ。

委　員　　そのようなことをこのプランニングの中にいれてほしい。近年は杉のような根の浅い木を植えて里山だと思っている錯覚があったのではないかと思う。先人は地域を守るために緑を守ってきたがそれはスギを植えることではない。そういうことを今の行政のトップや中間層でも知らない方がたまにいる。田園環境といっているのであれば地域の緑をどう大切にしていくか、それに住民がどういう形で参加できるか、そういうことをプランニングの中に加えていただきたい。是非、このプランが新しい発想を加えながら地域の皆さんに広まるよう、それぞれの立場からがんばっていただきたいと思う。

委員長　　他に意見がなければ委員会はこれで締めさせていただきたいと思います。今回は新事業だけでなく全体的な話も確認できました。私は去年から県の委員会にも参加しており、特に感じたのですが今回は防災という名前で事業が図られています。見れば直すだけではなく、防災という目線で事業が入っていたのが印象的でした。人が減って管理もだんだんできなくなっているところをこの事業で補って、いかにその地区を守っていけるか、すべては農業に繋がる大事なことですので野地地区のように地区毎にため池を管理していただけるところがもっと増やせればよろしいのかと思います。補助的にお助けする意味でこの事業が進めていければいいと思います。行政の皆さんもどうぞ心してがんばっていただきたいと思います。

各委員　　賛同

事務局（市）　　閉会宣言